

22:29 イスラエルの王とユダの王ヨシャファテは、ラモテ・ギルアデに攻め上った。
22:30 イスラエルの王はヨシャファテに言った。「私は変装して戦いに行きます。しかし、あなたは自分の王服を着ていてください。」イスラエルの王は変装して戦いに行った。
22:31 アラムの王は、自分の配下の戦車隊長たち三十二人に次のように命じた。「兵とも将軍とも戦うな。ただイスラエルの王だけを狙って戦え。」
22:32 戦車隊長たちはヨシャファテを見つけたとき、「きっと、あれがイスラエルの王に違いない」と思ったので、彼の方に向きを変え、戦おうとした。ヨシャファテは助けを叫び求めた。
22:33 戦車隊長たちは、彼がイスラエルの王ではないことを知り、彼を追うことをやめて引き返した。
22:34 そのとき、ある一人の兵士が何気なく弓を引くと、イスラエルの王の胸当てと草摺の間を射抜いた。王は自分の戦車の御者に言った。「手綱を返して、私を陣営から出させてくれ。傷を負ってしまったから。」
22:35 その日、戦いは激しくなった。王はアラムに向かって、戦車の中で立っていたが、夕方になって死んだ。傷から出た血が戦車のくぼみに流れた。
22:36 日没のころ、陣営の中に「それぞれ自分の町、自分の国へ帰れ」という叫び声が伝わった。
22:37 王は死んでサマリアに運ばれた。人々はサマリアで王を葬った。
22:38 それから戦車をサマリアの池で洗った。

犬が彼の血をなめ、遊女たちがそこで身を洗った。【主】が語られたことばのとおりであった。

22:39 アハブについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、彼が建てた象牙の家、彼が建てたすべての町、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。

22:40 アハブは先祖とともに眠りにつき、その子アハズヤが代わって王となった。

縁戚関係などもあって不信仰の王アハブの戦いに参戦したヨシャファテでしたが、危険を負うこととなります。アハブはヨシャパテに目立つ王服を着させて、自分は目立たない「変装」で戦場に出たのです。ヨシャパテはすぐに危機に陥ります。

しかし変装も効果はなく、アハブは「何げなく」放たれた矢が装備の間をたまたま抜いて、傷を負ってサマリアの地で屈辱的な死を遂げたのでした。

アハブ王は主に逆らい、異教に仕え、正しい預言者たちを殺したほどの悪王でした。彼はイスラエルでは最高権力者でしたが、それでも主の前には弱い小さな存在でしかなかったのです。主に従う意外に権力者であっても生きるすべはありません。

また彼についての預言はすべて成就しました。もしも彼が滅びを免れるとしたら、それは悔い改めて主に立ち返るしかなかったのですが、それをしなかったのです。

自分は力がついてきた。思い通りにできるようになった。神にばかり従ってはいは思い通りのことができない。などと感じるようになったら、それは危険信号です。神様なしでは生きられないのだと心に刻みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

